

基本指針

- 目指すべき森林の姿
- 県民参加による森づくり

⇒天然林を「里山林」と「保全林」、人工林を「生産林」と「混交林」に区分し、森林の状態や、地域ニーズ等を踏まえた、多様な森づくりを推進
 ⇒森づくりを推進するにあたっては、計画、実行、評価、改善の各プロセスにおいて、幅広い県民の参加を得ながら進める

混交林の整備 整備目標 500ha

奥地の人工林や竹の侵入した人工林を広葉樹との混交林へ誘導するとともに、森づくりに活用する県産広葉樹苗を県民協働で育成



荒廃し、流木が危惧される人工林

拡充

○危険木の流出防止対策

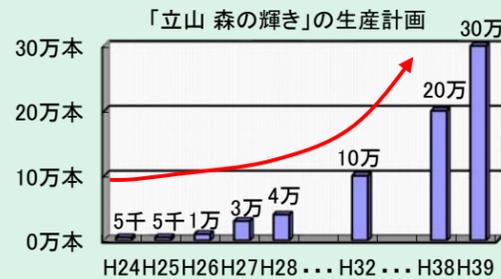
優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽

植栽面積 460ha

森林資源の循環利用と、花粉症対策の一環として、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の苗木を生産し、スギ人工林の伐採跡地に植栽



「立山 森の輝き」の苗畑



スギ伐採跡地の植栽

水と緑に恵まれた県土を支える多様な森づくりの推進



里山林の整備 整備目標 2,000ha

生活に利用されなくなり、うっそうとした里山林を、野生動物との棲み分や景観の保全などを旨とし、県民協働により整備

新たに

- 海岸林での重点的な松くい虫被害対策
- 流木防止のための里山林の機能強化

拡充

- 地域住民等による森づくり活動への支援を拡充
- 再生竹の整理や伐採竹の活用支援



管理や更新の妨げとなる伐採竹



県民参加による里山林の整備



生活や富山湾の景観を守る海岸林



松くい虫による松枯れの状況

とやまの森を支える人づくりの推進

森づくりの年間参加延べ人数 目標13,000人

森林ボランティア活動の支援

とやまの森づくりサポートセンターによる、森づくりに必要な機材の貸出しや、安全講習など、森林ボランティア活動を専門的・総合的に支援

新たに

○「森づくりサポーター」による里山林整備の支援

拡充

○企業の森づくりの推進

森づくりへの理解を醸成する取り組み

児童、生徒など広く県民を対象とした「森の寺子屋」の開催や、県民が企画し実践する森づくり活動への支援、森づくり情報の提供など

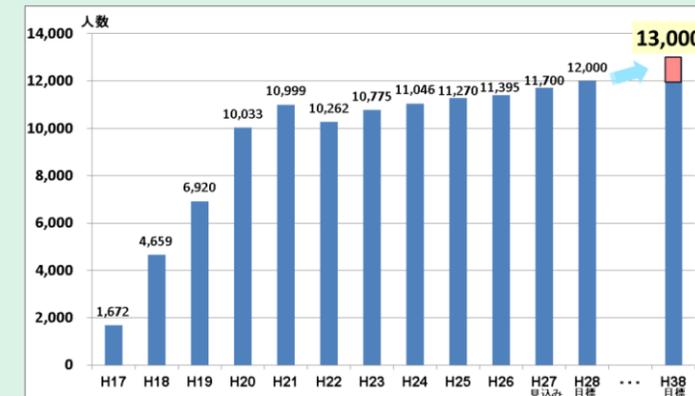
拡充

○「森林浴の森」を活用した「森の寺子屋」の開催

○県民参加の森づくりフェアの充実

○HPや広報誌などを活用し、森づくり活動の効果など森づくりに関する情報の発信

森づくりの年間参加延べ人数の実績・目標



里山林整備の手助けを行うサポーターの養成



「森林浴の森」等の野外での「森の寺子屋」

森林資源の循環利用の推進

森づくりにつながる県産材利用の推進

公共施設等の木質化や県産材玩具の導入支援、木育の推進など、森林資源の循環利用を進める

拡充

○公共施設等の内装木質化や木製品の導入等支援の充実

○木育の拠点となる施設の整備と木育を推進する人材の養成



公共施設の木質化



県産材玩具を用いた木育

必要な事業費と水と緑の森づくり税

森づくりの取り組みに必要な事業費(10年間) 38.5億円

【課税期間】

平成29～33年度まで5年間の延長

【税額の見直し】

以下により、必要な財源を確保します

《個人》現行どおり 年間500円

《法人》資本金等が10億円を超える大企業は増額

税額(年間)

資本金等	現行	改正
100億円超	80,000円	100,000円
50億円超	60,000円	80,000円
10億円超	27,000円	40,500円
1億円超	6,500円	現行どおり
1千万円超	2,500円	現行どおり
1千万円以下	1,000円	現行どおり